

1. 構想の概要

【構想の名称】

PRIMEプログラム：世界で活躍できる「実践人」を育成する！

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

学生と教職員は高度な能力を身に付けて世界に出かけ、また世界から優れた学生や教員及び研究者を岡山大学に迎え、岡山大学を世界に向けて創造的な知の成果、技の結実を発信する大学に進化させる。人をかえ、地域をかえ、世界をかえ、10年後、世界に存在感を示す岡山大学になる。

【構想の概要】

PRIME (PRactical Interactive Mode for Education) プログラムにより、学生は3基幹力／3 powersを知識として持つだけでなく、3側面／3 facesの経験によりグローバルな現場で試す機会を持つことができ、現場に必要な、会話力、創造力、行動力、統率力、決断力を涵養し、実践の現場で適切な判断をくだすことができる能力(グローバル実践知)を身に付けることができる。

1. リベラル・アーツ教育と語学力の育成

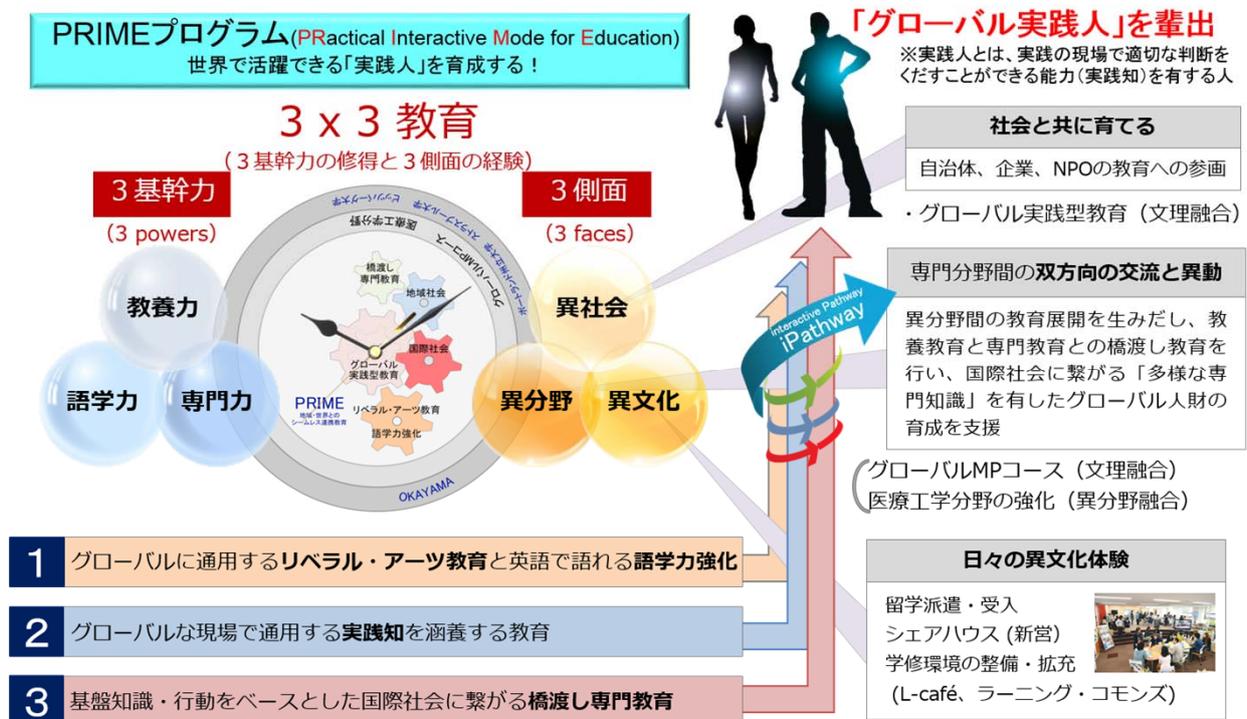
リベラル・アーツ教育により、グローバルに活躍するために必要な日本人としてのアイデンティティを形成し、自分の考えを英語で語れるコミュニケーション力を育成する。

2. グローバルな現場で通用する実践知教育

学生は、地域・企業・国際社会の現場体験を通して現場の課題を解決することにより、適切な判断をくだす能力を修得できる。グローバル実践型教育は、実社会との互恵性を保持することも目的とする。地域のみならず国際社会との連携教育を全学展開する。

3. 国際社会に繋がる橋渡し専門教育

教養教育で身に付けた基礎知識・行動力をベースに、総合大学の強みを活かして、多様な専門知識を有した人財を育成する。



高等教育開発推進機構
地域総合研究センター(AGORA)

Global Partners
EXPERIENCES



【10年間の計画概要】

国際化推進体制

グローバル人材育成特別コースの拡充(定員50人→150人)、予備教育特別コース・短期留学受入コースの設置・拡充(60人/年→200人/年)

※留学生数2,000人 留学経験者1,200人 異文化体験100%

教育制度改革

ナンバリング導入(実施率100%)、60分授業・クォーター制の全学導入(平成28年度～)、高等教育開発推進機構を設置し新教養教育を開始(平成28年度～)

※ナンバリング、60分授業、クォーター制 100%導入

グローバル実践型教育

実践型教育の全学展開と大学院・社会人教育への展開、地域との連携による会議組織による実践型教育の推進

※全学生にグローバル実践型教育 100%

学びの自由度(MPコース)

新入試(IB、特別入試)の導入、グローバルMPコースの設置(定員の拡充:17人→250人)

※外国語による授業2,100科目 外国語のみで卒業コース率45%

強みの伸長 国際医療工学

生命医用工学専攻の設置、海外キャンパスの設置、国際医療生体工学研究科の新設

※外国語による授業2,100科目 外国語のみで卒業コース率45%(再掲)

国際化を支えるガバナンス体制

国際センターの改組、年俸制の拡大、大学改革推進体制の強化、5U戦略(URA・UEA・UGA・UPR・UAA)の展開

※年俸制:教員53.1% 職員31.3% 外国人等比率:教員60% 職員10%

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

・グローバル実践型教育の全学展開

大学と社会との協働を特徴とするグローバル実践型教育科目を、全学体制で実施。

留学生と日本人学生が学部横断でチームを組み、地域や世界の歴史・文化・産業を共に学ぶ。座学で得た知識を持って社会の現場に出かけ、社会が直面する課題に、学生と社会が協働して取り組む。学生はグローバルな視点で課題解決ができるグローバル実践知を修得し、社会は課題を解決する。

・特色を進化させるグローバルマッチングプログラムコース

学生が自ら設定する課題に応じ、学部・学科横断型の履修プログラムにより学習できる現在のマッチングプログラムコースを拡充し、グローバルマッチングプログラム(グローバルMP)コースとして設置。

文系・理系それぞれに英語学位取得コースを設定し、1年生から徹底した語学教育を実施する。英語と日本語による教育を行い、留学生と日本人がともに学ぶ混合ゼミを開講する。また、日本人、留学生とともに海外を含めた長期インターンシップによる異社会・異文化での学びを行う。これらにより国際舞台で活躍できる人財の育成を目指す。

・強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

「生命医用工学専攻」(平成27年設置)をベースに、医学・工学・農学を中心とした異分野融合研究を発展させるため、平成30年に「国際医療生体工学研究科」を設置。

社会の高齢化が進む現代において、介護、医療や福祉の分野では患者のQOL向上を可能にする新しい医療機器、診断治療技術、創薬開発技術の開発をリードできる人財が必要不可欠となっている。そうした人財を育成するため、平成30年に「国際医療生体工学研究科」を設置する。また、海外提携大学病院との連携を更に強化し、国際的な医療工学研究を展開する。

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 国際バカロレア入試

国際バカロレア入試(4月入学)は、平成25年度までは理学部、医学部保健学科、工学部、農学部、マッチングプログラムコースの4学部1コースで実施していたが、平成27年度から全学部全学科に拡充した。

2. 大学院予備教育特別コース

平成26年10月、大学院予備教育特別コース(留学生の大学院進学準備を支援)と短期留学受入コース(学部3年を終了した学生を特別聴講学生として受入)を開設した。大学院予備教育特別コースの受入実績は、平成26年度後期28名、平成27年度前期30名、平成27年度後期は60名を超える予定である。

3. ナンバリングとシラバスの英語化

8-9月にナンバリングの試行入力を実施し、試行結果を踏まえナンバリング案「AREAtTGETxpdqW」を11月開催の教育研究評議会に諮り、全学の承認を得た。シラバス英語化は、平成27年度版を平成26年度内に完了し、3月に学生に公開した。

4. 留学開始前及び開始時の支援

学生ビザの取得サポートや到着後の手続きについてをわかりやすくまとめた冊子を事前案内として作成した。平成26年後期から国際便の到着に合わせて空港送迎サポートを行っている。

オリエンテーションは、言語別(日・英)に行い、岡山大学生協、携帯電話の説明など生活に必要な情報案内を増やすとともに、寮のレジデント・アシスタント(RA)や学生ヘルプスタッフなどを通して到着直後の留学生の支援がスムーズにできるよう内容を充実させた。



〈ヘルプスタッフによるサポート〉

ガバナンス改革関連

1. 大学改革のための会議

大学改革推進会議を設置し(平成26年4月)、大学改革に関する戦略や方針策定等について大学執行部間による意見交換を開始した。同時に、BR(Build&Renovate)会議を設置し、大学改革に関する具体的な施策の実施等について、部局長との意見交換や情報共有等の機会を設けている。両会議は、毎月定期開催している。

2. 高度専門職系職員の採用

学長・担当理事の下、自らの判断で動く実務家集団5U(UEA、URA、UAA、UGA、UPR)を学外より年俸制により登用することとした。平成26年度は、研究施策の提言や、世界的研究情報の把握・分析など、大学の研究サポート体制を一層強化するためにURAを3名、また、大学全体の広報戦略を策定し、実践を行うUPRを1名雇用した。

3. 年俸制の拡大

平成26年度に常勤教員に適用する制度を構築した。平成26年度内に190名(15%)を年俸制に適用する計画であったが、実際には214名(17%)に適用できた。

教育改革関連

1. 高等教育開発推進機構の設置

高等教育等に関する情報収集、研究開発、企画及び教育改革に関する調査・研究、教育課程・教育方法の検証及び全学的な教育の推進を支援する教育研究組織として「高等教育開発推進機構」を平成26年10月に設置し、60分授業、クォーター制導入に向けた検討を実施した。

2. 自主学修スペースの確保

中央図書館、鹿田分館の耐震改修工事により、両館にラーニングコモンズ、セミナー室・グループ学修室等の自主学修スペースを確保した。新しい施設の効果や、クリティカルシンキングやフィンランド方式対話法によるコミュニケーション能力を育成する教育プログラム開発に向けたパイロット授業等の多様なイベントを実施したことなどにより、中央図書館の平成26年度入館者数は451,894人となり、対前年度比約1.5倍に増加した。



〈ラーニングコモンズ〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. グローバル化に対応するため積極的に改革が必要と考えるマインドを持つ教職員を増やす。

平成26年度に、大学改革に向けて企画力、コミュニケーション能力等を向上させるための若手事務職員育成研修「若手職員塾」、グローバル人材育成に向けた英語のコミュニケーション能力の向上を目的とした「グローバルリーダーシップ研修」、グローバル化に向けた礎を築く職員の資質向上を目的とした「グローバルビジョン研修」を実施した。

また、毎年実施の「部局長等合宿セッション」に加え、工学部では、大学改革の取組を促進する「教員のための大学改革マインド向上研修会」を実施した。



〈 部局長等合宿セッション 〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. グローバル実践型教育の全学展開

自治体(県知事)及び経済界(経済同友会代表幹事)を招いて、地域に本構想を紹介するシンポジウムを開催し、グローバル実践型教育を展開するため産学官連携を強化した。

また、実践型社会連携教育プログラムの定義(案)を定め、平成27年度に行う試行科目を決定し、平成28年度実施予定の授業科目案を作成した。今後は、プログラムの自己点検結果を踏まえ全授業科目を点検し、平成28年度に本格導入する。



〈 産学官連携のためのシンポジウム 〉

2. 特色を進化させるグローバルマッチングプログラムコース

平成29年度コース設置に向けたWGを組織し、現行のマッチングプログラムコースの拡充及びグローバル化に向け、他大学との差別化に向けたカリキュラム開発のための海外10校での聞き取り調査等を行った。幅広い学問領域での学びの保証や、大学院への接続プログラムの設置等、総合大学の利点を活かしたカリキュラムの構築を開始した。

新プログラムにおいては、多様なバックグラウンドを持つ学生がともに学ぶことを基本とし、3×3教育の実現に向け、徹底した語学教育、リベラルアーツ科目の必修化、複数の専門科目群の設置による文理融合教育、国内外での長期インターンシップ等の実践型科目の開設を行う予定である。

3. 強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

新しい研究開発をリードする人材を育成するため、大学院自然科学研究科の産業創成工学専攻及び化学生命工学専攻から医用工学に関わる教育研究分野を統合し、同研究科内に「生命医用工学専攻」を設置した(平成27年4月1日)。

ミッションの再定義で評価された本学の強み「臨床研究や移植医療の推進(医学)、医農との異分野融合/生物機能(工学)、医歯薬理工農分野との連携(看護・医療技術)」を伸長する国際医療生体工学研究科(仮称)の新設(平成30年度)に向け、全研究科長と意見交換を開始した。

■ 自由記述欄

1. 工程表に基づく着実な計画の実行

今後10年間で達成する全取組を工程表にまとめ、各取組に担当責任者(理事クラス)、実施責任部署を設定した。工程表の全項目に対してSGU進捗状況確認表を作成し、定期的に全取組の進捗状況を確認することで、計画の着実な実行を目指している。

2. 教職員一体となつての事業展開

取組内容別に教員・職員からなるプロジェクトチームを編成し、教職協働で事業推進を実行している。

3. 全学を挙げての事業推進

プロジェクトチームで検討した内容等を、全部局長が参加するBR会議に諮り、全部局との意見交換を行っている。全部局の了解を得て、教育研究評議会等で事業を決定し、実行に移している。

〈 SGU進捗状況確認表 〉

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 国際学生シェアハウスの建設

平成28年3月に、120名の学生(日本人学生30名、外国人留学生90名)が共同生活を送るシェアハウスが完成した。共同生活を送ることで、お互いの文化理解や協働、学びあいが促進されるとともに、語学学習意欲の向上や国際交流・留学への啓発の場としても期待される。



〈国際学生シェアハウス〉

○ グローバル人材育成特別コースの体制充実及び受入学生数を倍増

入学した学部にも所属しながら、コースのカリキュラムに則して英語力養成、海外研修・留学などのプログラムを履修し、グローバルリーダーシップを育むことを目的としてグローバル人材育成特別コースの受入学生数を倍増(50名→100名)した。



〈グローバル人材育成特別コース授業〉

また、コース生の増加に対応できるよう、協定校の新規拡大(新規大学間協定校14校、新規部局間協定6校、海外新規語学研修先2校)を図るとともに、これまでの海外語学研修及び交換留学協定プログラムの拡充(語学研修・交換留学定員数を約90人増加)及び海外インターンシップ先の新規開発・実施(3件)を全学を挙げて行った。

○ 大学院予備教育特別コースの拡充

大学を卒業した留学生の大学院進学を準備するための受入プログラム「大学院予備教育特別コース」を平成26年度から引き続き行い、4月期22名入学、10月期27名入学と着実に在籍者を増やし、海外留学生の日本語能力の向上を図ることができた。

○ 授業科目のナンバリングとシラバスの英語化

授業科目のナンバリングとシラバスの英語化を推進し、平成28年度の授業科目については、いずれも100%となった。

ガバナンス改革関連

○ 教員再配置システムの構築

大学執行部及び部局長による改革推進に向けた意見交換を行うBR(Build&Renovate)会議において、分野毎の学生収容定員に基づく標準教員数を「基盤数」とし、学内共通事業に関する当該部局の貢献度等により算出した「貢献数」を加味した部局の「基本教員数」を算出する教員再配置システムを構築し、学内資源(教員ポスト)の再配分・最適化を実施している。

○ 広報・情報戦略

岡山大学のブランディングのための広報戦略本部を平成27年5月に設置し、学部案内デザイン統一化、大学及び学部英語版ホームページの改訂等を行った。

また、平成26年度に設置した情報戦略(広報・IR)検討プロジェクトチームにおいて、本学が所有する諸情報の収集、整理及び分析を通じた計画策定を行った。

○ 多様な教職員確保

外国の大学で学位を取得し、外国で通算1年以上の職務・研究経験のある者をUniversity Global Administrator(UGA:大学の国際戦略策定を行う高度専門職)として採用した。また、クロスアポイントメント制を適用した教員の採用や教職員に対する年俸制適用者の拡大(平成27年3月1日236名→平成28年3月1日375名)を図るなど、多様な教職員の確保に努めた。

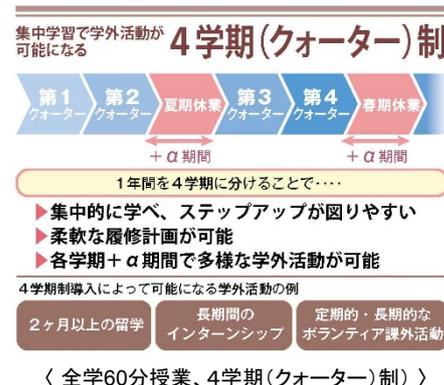
教育改革関連

○ 全学60分授業、4学期(クォーター)制の導入に向けた取組

平成28年度から導入する全学60分授業制による学びの強化、4学期(クォーター)制導入による学生の主体的活動(長期留学、ボランティア等)の向上について学生、教職員に周知し、カリキュラムの見直しや授業改善を促進させるとともに、新体制のスムーズな導入を可能にした。

○ 全学組織体制の強化

教育関係組織の機能向上、簡素化を図るため、教育関係の2機構・7全学センターの改組・統合・廃止について議論を重ね、「全学教育・学生支援機構」を平成28年4月に新設することとした。このことにより、新たな業務要請(グローバル化・高大接続等)対応できるとともに、全学教育に関する議論の場を明確にした。



■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 人材育成(「人をかえる」仕組)として、教職員のマインドを“変える”ために、PBL型研修を拡充

従来行っていた新任教職員研修や事務系の主査・主任研修にPBL要素を加えることで、大学改革に向け、企画力、コミュニケーション能力等を向上させる機会を拡充した。

また、平成24年度から開講している若手職員塾について、平成24年度及び平成25年度受講者の能力をさらに向上させることを目的とし、若手職員塾〈発展型〉を開講した。



〈若手職員塾〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. グローバル実践型教育の全学展開

グローバル実践型教育として評価が高いコーオプ教育に関して訪問調査を行い、本学での導入・展開のための試行事例としてブリティッシュコロンビア大学(UBC)のCo-opプログラムを実施することとし、UBC学生を3ヶ月間受入れ、県内の林業関係企業へ派遣し、その期間内に本学学生を同行させ、Co-opプログラムを実施した。また、岡山大学版Co-opプログラムの紹介や、コーオプ教育の目的、有効性及び今後の課題について意見交換を行うことを目的としたグローバル実践型教育特別シンポジウムを開催した。

実践型社会連携教育科目については、試行を教養教育13科目で行い、平成28年度から教養教育約60科目及び専門教育約50科目に本格導入する。



〈UBC学生とのCo-opプログラム実施〉

2. 特色を進化させるグローバル・ディスカバリー・プログラム

平成29年度コース設置に向け、グローバルマッチングプログラムコース設置構想の内容の充実・発展などを検討し、グローバル・ディスカバリー・プログラムに名称を変えるとともに、設置準備室の設置を行った。また、7つの検討チーム「カリキュラム」「入試」「広報・リクルート」「留学生サポート」「言語教育」「長期インターンシップ」「教育方法・施設」を置き、計64回におよぶ検討会を開催した。

留学フェア参加や海外高校訪問を行い、広報・リクルート活動を行った。また、海外における人材需要の把握、必要とされる専門性や能力の整理を続けた。さらに学生・社会のニーズに合った教育効果の高い実践力を兼ね備えた人材を育成するカリキュラム開発及び同プログラムが求める人材に適志願者を獲得するための入試制度を整備した。



〈グローバル・ディスカバリー・プログラム広報
(第3回GO Global Japan Expo)〉

3. 強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

医療工学分野の強化と人文社会系との融合による高齢社会の課題解決のための医療科学連携大学院の検討会及びワーキンググループを設置した。医工連携に留まらず、人文社会系からも参画する方向で検討が進み、平成30年度の大学院医療科学統合研究科(仮称)の設置に向け、文理融合による社会・学生のニーズにあった大学院の設置に向けた検討を進めた。

また、平成28年度に大学院医療科学統合研究科(仮称)ワークショップを開催する。



〈外部評価委員会の開催〉

■ 自由記述欄

○ 外部評価委員会の開催

外部有識者5名、本学学長、関係理事6名及び学長補佐3名による平成27年度岡山大学スーパーグローバル大学等事業外部評価委員会を開催した。構想実現に向けた数値的なプロセス管理による全学的な取組の推進と教職員への意識付けを行うことができた。

○ スーパーグローバル大学創成支援進捗状況確認表による進捗状況の確認

スーパーグローバル大学創成支援の全取組について、担当責任者(理事クラス)及び実施責任部署を明らかにしたスーパーグローバル大学創成支援進捗状況確認表を活用し、教員・職員からなるプロジェクトチームで定期的に進捗状況の確認を行った。また、課題を把握することで、改善策の議論を行った。

○ スーパーグローバルデーの開催

グローバル化・国際交流の推進を目的とした新たな試みとして「岡山大学スーパーグローバルデー2015」を開催し、国際同窓会の海外支部同窓生など国内外から集まった400人を超える来場者が交流を深めました。



〈スーパーグローバルデーの開催〉